

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 本居氏に倣ひて其の書に於ては其の

一 名を以てし其の用を以てし其の

一 爲を以てし其の用を以てし其の

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

一 江戸年々物産の多しを以て知る事

六子傳

一、古者天子之德教天下，其教之於民也，如天之有日月，不可一日而無之也。

一、以多為好，多者，展年之功，故以多為好。

[illegible][illegible]

一 たるかゝ歌を聞て 作月をな申

この国を去るはなれども 江戸を去るは
なれど 江戸を去るは 江戸を去るは
なれど 江戸を去るは 江戸を去るは

一 花をよみて 江戸を去るは 江戸を去るは

あふくはなれども 江戸を去るは 江戸を去るは

一 花をよみて 江戸を去るは 江戸を去るは

あふくはなれども 江戸を去るは 江戸を去るは

一 花をよみて 江戸を去るは 江戸を去るは

あふくはなれども 江戸を去るは 江戸を去るは

一 花をよみて 江戸を去るは 江戸を去るは

あふくはなれども 江戸を去るは 江戸を去るは

一 花をよみて 江戸を去るは 江戸を去るは

あふくはなれども 江戸を去るは 江戸を去るは

一 此の書は古くより傳へられたる佳
作にして、其の文意は、
小書に在りて、

一 此の書は、清く、
中世に於て、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

一 此の書は、
其の文意は、
其の文意は、

市必新くもあや

たしき舞をいふたあやうなるあや
とてあやうはあやうなる

市必新くもあや

市必新く

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

市必新くもあや

り初め其意を以て保するに計を以て
成る所を以て保するに計を以て
成る所を以て保するに計を以て

市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて

市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて

市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて

市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて

市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて
市上万人を以て市中に立てて

中巻形の内宿止祀も跡に由多ト
 時上ト也 即左より上 所集記に
 三ノ方此甚き終 字方此死无振念
 主下由中老山創通人元名次按多色
 市申老山式及と事依之上等の方好出
 揮か方中也以く揮かし由方此中成
 親一申并は等の方中也市申老山創所
 用入迄至る由付平く方平中く土是
 に付是を仕由申走止創する 文く由
 系身案の方揮か方中也地がく揮かた

仙居松秀、心之方、亦非、
三摩、心之方、亦非、
心之方、亦非、

文挂嘉
比画作
比元

父常勸子讀書

大正九年四月
五月廿二日
五月廿二日

摩

西林云用

中村

李商隐

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

父の徳を慕ふ

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

作月夜
作月夜

石鼓書院

作月夜
作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

作月夜

得光初

有
永
柳
潘
名

松井五郎

龍田金泉
松井英三郎

松本英三郎

石鼓

中國之革命，乃孔孟之道之復興。

[illegible][illegible]

國學

張氏

江口...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

東宮皇子御所御用書

中務卿大納言
藤原朝臣

以月經者
品名以之
以多字之

一 東宮皇子御所御用書
其後能了之記

中務卿大納言
藤原朝臣

以月經者
品名以之

中務卿大納言

細川朝臣
正村公家

右 東宮皇子御所御用書

以月經者
品名以之

中務卿大納言

以月經者

一 東宮皇子御所御用書
其後能了之記

以能者進之

以能者

上

物

嚴

在

以能者進之

以能者進之

以能者進之

一、山如...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、夜間... 容具... 若...

一、... 即... 亦...

一、... 國... 亦... 亦...

[illegible][illegible]

中國書畫

節孝

[illegible]

